

# 令和3年度 教育行政評価シート（自己評価） NO. 20

主要事業名	国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」の史跡公園に向けた整備と鹿嶋市の歴史資産の保全と継承のための歴史資料館整備					作成日	R4.5.23
						担当課名	社会教育課
						担当者名	内田 勇樹
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費
					○	建設事業	その他
事業期間	○	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から 年度まで

## 1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	5	伝統文化・芸術の振興		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(2)	歴史、文化遺産（有形・無形）の保存・保全と継承		基本政策	5	学び・楽しみ、地域がつながるまち	
個別施策	②	歴史的資料を保存・公開する施設の整備		基本施策	1	郷土教育の推進	
根拠法令等	文化財保護法						

## 2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	<p>史跡整備事業は、『常陸国風土記』にも記載されている古代の鹿島郡の郡役所跡である鹿島郡家跡（昭和61年8月4日に国の史跡に指定）を史跡公園として整備し、体験学習や社会教育的な場所として活用しながら、歴史的遺産として後世に残すために保存整備及び活用を図る。</p> <p>歴史資料館整備事業は、本市が進めている中心市街地活性化事業の一つで、鹿島神宮の門前町の賑わいを取り戻す施策である。</p>
目的（事業の目指すところ）	<p>史跡整備事業は、史跡公園として郷土学習や体験学習の場や、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として保存整備・活用を行っていく。</p> <p>また、歴史資料館整備事業は、本市に博物館法に基づく施設がないため、博物館法で定められた、収集・保存、調査・研究、活用等を実施できる施設整備を検討する。</p>
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の適切な保存・環境整備</li> <li>・史跡整備の概要を学べるワークショップの実施</li> <li>・ミニ博物館ココシカで国史跡の内容等の常設展示・企画展示の実施</li> <li>・（仮称）鹿嶋市歴史資料館建設検討委員会を設置し、基本計画を策定する。</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>当該史跡は、平成26年度に整備基本構想、平成30年度に保存活用計画、令和2年度に整備基本計画が策定され、史跡公園として効果的な活用が求められている。また歴史資料館整備事業については、中心市街地活性化事業として平成30年に内閣府に認可を受けている。</p>

## 3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)
		ミニ博物館ココシカ	人	4,560	10,000	10,000	10,000

全体計画		R3年度 (決算額：千円)	R4年度 (予算額：千円)	R5年度 (計画額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)
投入コスト	事業経費					
	史跡整備事業（ワークショップ等）	0	78	300	300	300
	維持管理費（草刈業務委託）	1,071	1,097	1,200	1,200	1,200
	ミニ博物館ココシカ事業（展示作成費）	462	450	500	500	500
	歴史資料館整備事業（検討委員会）	87	90	0	0	0
	歴史資料館設計委託料（建築及び展示）	275	30,463	0	0	0
	合計	1,895	32,178	2,000	2,000	2,000
財源内訳	国県支出金	110	9,602			
	地方債					
	その他（参加者負担金）					
	一般財源	1,785	22,576	2,000	2,000	2,000
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	2	2	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）	1	1	2	2	2

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①(仮称)鹿嶋市歴史資料館整備基本計画の策定  【比率: 80%】	(仮称)鹿嶋市歴史資料館建設の基本方針となる基本計画を策定する。	・建設検討委員会を設置し、内容を検討する(年3回)。 ・建築設計について、コンサルタントに委託し、計画内容の取り纏めを行う。	・建設検討委員会の開催(1回) ・コンサルタントとの協議(8回)	・委員からの意見を集約し、教育委員会としての歴史資料館の方針をまとめた。 ・コンサルタントによって建設に当たっての課題を精査することで、方針を見直すことが出来た。	・建設にあたり、改築による構造やエリアの課題などが精査することができ、具体的な方針が定まった。	個別事業実績評価点: 71.6 [課題] ・博物館機能として面積が少ないため、どこに重点を置くか検討する必要がある。 ・当初計画の建築案の再検討が必要。
②公有地の維持管理  【比率: 10%】	・史跡の一つである郡家跡において、史跡公園整備までの間、適正に維持管理する。(郡家跡土地公有化面積71665.01㎡) ・土地の公有化	・見学者が見て回れるように郡家跡を管理をする。 ・郡家跡の史跡内で未買地の土地の公有化を進める。	・草刈り等を行い、適正な維持管理ができた。 ・未公有地化土地所有者と協議のため内容を精査。	・鹿島郡家跡は、現地状況を見ながら適切な管理を行い、簡易的な遺構表示等を行い、見学者への周知を図った。 ・土地所有者と課題解決に向けて方針精査を行った。	・調査成果を踏まえた簡易看板の設置など見学者への周知を図ることができた。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] ・指定範囲を明確にし、草刈の回数を増やし管理する必要がある。 ・未公有化の土地は、課題解決となる協議を行う必要がある。
③ミニ博物館ココシカの健全運営  【比率: 10%】	・国史跡の内容等について、常設展示・企画展示を行って、市民や観光客に周知活動を行っていく。	・企画展示の開催や講座の開催、観光客への国史跡の案内などを行う。	・神宮の歴史や鹿島郡家跡のジオラマ作成を行い、観光客等に周知活動を行った。(企画展5回(5回)、特別展2回(2回)、講座3回(2回))	・ミニ博物館ココシカ入館者数 4,560人(R2年度入館者数3,753人)	・新型コロナウイルス感染拡大予防のため閉館もあったが、企画展等を開催し、観光客等の集客に努めた。	個別事業実績評価点: 6.5 [課題] ・小規模の展示スペースしかなく、企画展示等を行うたびに展示替えを行うため、常設展示の周知が少なくなってしまう。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	84.6	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 史跡整備は、整備基本計画を策定し、基本設計に移行する前に住民理解を深めるため、ワークショップ活動を計画した。鹿島郡家跡を中心として、歴史公園としての方針について検討し、基本設計への基準としていく。 歴史資料館整備事業は、これまでの基本構想や基本計画をもとに、教育委員会として博物館法に基づく施設のあり方を再検討し、基本計画として精査することが出来た。また展示についても大まかなコンセプトを取り纏め、イメージ図などを作成することが出来た。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	史跡整備事業は、今後鹿島郡家跡を活用していくための事業として、また、歴史資料館整備事業は、市の歴史を伝える場として、そして資料の収集・保存、調査・研究のできる施設として本市の歴史を伝えるため事業として継続していく必要がある。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 史跡整備事業は、ワークショップの計画で終わったため、対象者の選定や開催場所の検討など開催に向けての準備が必要となる。 歴史資料館整備事業は、建設にあたり当初の改築及び増築での計画が困難であることが明らかとなり、新築での建設について再検討する必要がある。また当初計画案の令和6年度開館には、検討課題が多く期間的に難しい状況である。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 史跡整備事業は、周辺地区住民が史跡理解や協力体制の構築を図れるようワークショップを進め、周辺住民による提案なども検討し、基本設計へと繋げていく。 歴史資料館整備事業は、設計の見直しを図り、展示設計についても同時に手法を検討する。計画期間についても見直しを図り、博物館としての役割を果たせる施設づくりを検討する。						